

# ぼうさい通信 Vol.84



毎月16日は「防災教育啓発の日」

令和7年2月16日発行  
熊本県立湧心館高等学校

## 今月のテーマ

## 「2月の災害について」

早いもので2月になりました。立春を迎える2月は、後半になるにつれて春の気配を感じられる日が増えてきます。2月3日は暦の上では立春ですが、立春後も今年は大寒波のために、熊本県下全域でも雪が降り、寒い日が続いています。そのような天候を知るのに便利なのが防災情報メールや災害伝言ダイヤルです。災害用伝言ダイヤル(171)とは、地震、噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。

### 伝言の録音方法

- 1 7 1 にダイヤル  
▼  
ガイダンス  
▼  
録音の場合 1 をプッシュ  
▼  
(×××) ×××-××××

### 伝言の再生方法

- 1 7 1 にダイヤル  
▼  
ガイダンス  
▼  
再生の場合 2 をプッシュ  
▼  
(×××) ××× ××××

県内の気象情報や災害発生に関する情報のほか、市町村が発表する避難情報、避難所開設情報などが、直ちにメール配信されるサービスです。自分の命や身近な人の命を守るため、最新の情報を入手して、早めの避難に役立てましょう。

### 2月の天候の特徴

2月の天候には下記の特徴があります。

#### 2月の天候の特徴

- 2 春一番に注意  
春一番とは立春以降に吹く暖かい南風のこと。  
強風や雪解けによる災害に注意⚠

#### 1 日本海側の大雪

東側では低気圧が発達して気圧が低く、西側では高気圧が発達して気圧が高くなる日が多くなる💡

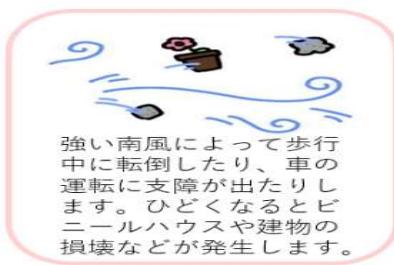
- 3 寒暖差が大きくなりやすい  
2月後半になると暖かく感じられる日が増えるが、再び寒気が流れ込み寒暖差が大きくなる日も🔥

春一番とは、冬から春への移行期に、初めて吹く暖かい南よりの強い風です。気象庁の定義では、2月4日ごろの立春から3月21日ごろの春分までの間に、広い範囲で初めて吹く暖かく(やや)強い南風のことを言います。

2月は春一番による暴風や高波、雪崩などの災害が起こりやすい時期です。また春一番が終わったら寒の戻りにも注意しなければなりません。災害に備えるためにも、春一番がもたらす災害のリスクや防災の正しい知識を身につけましょう。

春一番が発生する気象条件は主に「日本海低気圧」で、その名前のとおり日本海を進む低気圧です。風は気圧が高いところから低いところに吹く性質があるので、日本海を低気圧が進むと風向きは南寄りになります。また南風が暖かい空気を運んでくるため、気温もぐんぐん上昇します。

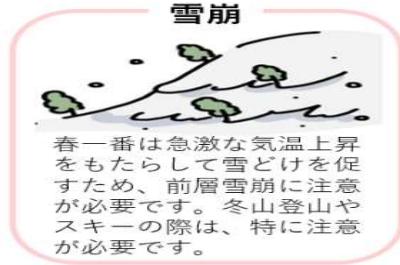
## 春一番がもたらす災害



強い南風によって歩行中に転倒したり、車の運転に支障が出たりします。ひどくなるとビニールハウスや建物の損壊などが発生します。



海は強い南風によって高波になります。特に海から陸に向かって風が吹く太平洋側は、波が高くなりやすい特徴があるので注意してください。



春一番は急激な気温上昇をもたらして雪どけを促すため、前層雪崩に注意が必要です。冬山登山やスキーの際は、特に注意が必要です。

春一番のような強い風は、日常生活に支障が出るだけなく、避難を余儀なくされるような大きな災害につながることがあります。例えば、暴風雨となり水道・ガス・電気の供給が止まってしまうこともあるでしょう。交通機関のまひにより、帰宅困難者になってしまふかもしれません。春一番のあとには寒の戻りがあり、気温が急に下がることがあります。そのような寒さのなかでの避難を考え、準備・対策をしておきましょう。また、万が一火災が起きた場合、強風にあおられて一気に燃え広がる恐れが考えられます。火災を起こさないための備えも必要です。

### 過去に起こった春一番による災害は？

春一番の名前の由来にもなった江戸時代の海難事故をはじめ、過去にはさまざまな被害がありました。例えば、1972年3月20日の富士山での暴風雨と雪崩による事故や1978年2月28日には、東京地方で竜巻の発生による車両の脱線・転覆事故などがあります。

### 日頃からの防災対策として

災害による被害をできるだけ少なくするためにには、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」が重要です。その中でも基本となるのは「自助」、自らの命は自らが守る意識を持ち、一人ひとりが自分の身の安全を守ることです。特に災害が発生したときは、自分が無事であることが最も重要です。「自助」に取り組むためには、災害に備え自分の家の安全対策をしておくとともに、家の外において地震や津波などに遭遇したときの、身の安全の守り方を知っておくことが必要です。また身の安全を確保し、生き延びていくためには、水や食料などの備えをしておくことも必要です。一人ひとりが、ハザードマップを確認し自宅の災害リスクを認識するなどの対策を講じることが重要です。

### 春一番にそなえる！ 事前にできる防災のポイント

1. 飛来物に注意する
2. 持っている物が飛ばされないようにする
3. 家の外の物を固定する
4. 火事の延焼を防ぐ
5. 交通機関の遅れ・運休に備える
6. 停電・断水に備える

春一番が吹いた後であれば、もう安心というわけではありません。その後も春一番と同様の、南よりの強い風が吹きつける場合もあり、これを「春二番」「春三番」などと呼んでいます。毎年2月、3月は、春の前触れとなる春一番とその後続くかもしれない春二番や春三番が吹くことを理解し、急な強風による災害に気を付けなければなりません。できるならば天気予報をチェックし、発生すると思われる日には海や川に近づかない、火の不始末に気を付ける、雪山には近づかないようにするなど、自分の身は自分で守るための対処法を意識しなければなりません。春一番が吹けば春はもうすぐです。

**過去のぼうさい通信を見ることができます** ◎ぼうさい通信(毎月16日発行)  
本校HPにアクセスしてみよう。 <https://sh.higo.ed.jp/yusinkan/>  
**くまもとマイタイムライン(デジタル版 マイタイムライン)は、**  
<https://portal.bousai.pref.kumamoto.jp/timeline/#/>で作成可能です。